

秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画 庁外作業部会中間報告

1 庁外作業部会概要

高齢者を含む市民が、計画・実施・検証段階において、主体的に取り組むことができる具体テーマについて庁外作業部会を設置し、市民が課題解決や新たな取組について協議し、行動計画（案）を作成する。

(1) 庁外作業部会のねらい

特定のテーマについて、市民参加のワークショップ方式を取り入れ、課題解決のためには何をすればよいか、市民が考え実行するという、市民主体の活動のモデルケースとする。また継続的な活動を促進し、市民による新たなネットワーク形成のきっかけづくりとしていく。

(2) 庁外作業部会テーマについて

「秋田市エイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）構想に関する提言書」（秋田市エイジフレンドリーシティ構想推進協議会）の4つの“特に重点的に取り組むべき課題”、秋田市総合計画「県都『あきた』成長プラン」成長戦略の4つの重点プログラムを参考とし、市民が主体的に実践しやすい2つをテーマとして設定した。

2 作業部会の経過報告

(1) 作業部会（テーマ1）

①タイトル：身近な場所のエイジフレンドリーを考える「商い・人・まち」

②概要：商店街という特定の場面において、高齢者の孤立への対応、高齢者が利用しやすい商店、買い物弱者対策など地域の活性化につながるアイデアを考える。

③参加者：25名（商店組合、NPO団体、老人クラブ、民生委員、地域住民、大学生、策定委員会委員、市職員など）

④開催経過

	日時	会場	参加者数	主な内容
1	10月 3日	民俗芸能伝承館	1 5	参加者自己紹介、意見交換「高齢者の強み・弱み」
2	10月25日	民俗芸能伝承館	1 5	意見交換「高齢社会の強み・弱み」「通町、大町商店街の強み・弱み」
3	10月31日	民俗芸能伝承館	1 2	意見交換「通町、大町商店街の強み・弱みの検証」「通町、大町商店街の特性を活かした行動計画案」
4	11月 7日	民俗芸能伝承館	1 1	意見交換「前回案の整理」「商店街の特性を活かした行動計画案の具体化」
5	11月19日	民俗芸能伝承館	1 2	意見交換「全体での行動計画案の振り返り、整理、決定」「グループ毎に行動計画案の具体化」

⑤作業部会での意見

- ・高齢者の強みには、精神の円熟がある。
- ・通町、大町周辺にはたくさんの神社がある。そして商店街にも歴史がある。
- ・この作業部会に参加して、若い人と一緒に話し合いができることが何よりも嬉しい。大切にしてもらうことは大変有難いことだが、高齢者だからと特別扱いされても、それは嬉しくはない。区別されることではなく、若い世代と一緒に活動したり、行動できることが重要だ。
- ・高齢者の強みとして挙げられるものは、実は私たちが高齢者に対して望む姿なのではないか。

- ・一つのことで年代によってそれぞれ別の捉え方をすることがあることがわかった。まずは、お互いを知るということが大切だ。
- ・街のみんなで考え、みんながつながり、みんなでつなげることで、街への愛情が更に沸く。「誇りに思える街、秋田っていいなあ〜。」

⑥行動計画案(骨子)

5回目の作業部会で、全員でこれまでのアイデアを再確認しながら、下記2つの行動計画案を提案することとした。

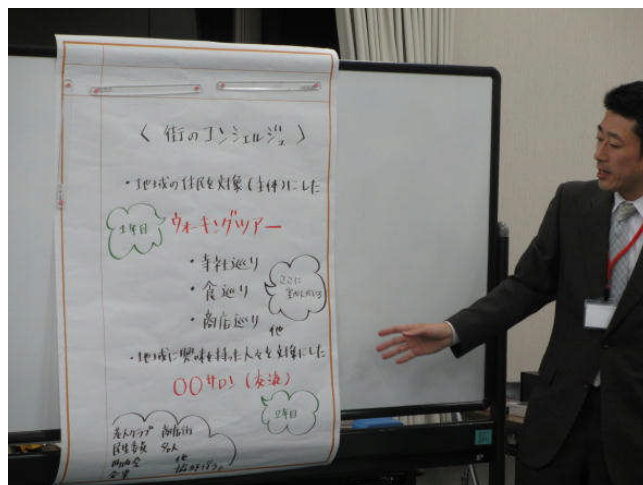
● お店のうらがわが見える！1日店長さん

- ・企画段階から関わりながら、新たな視点で商品開発等も行う。
- ・関わりで楽しんでもらうことで、高齢者が外に出るきっかけを作る。（「友達や孫が1日店長をやっているから、私も見に出ていこうかな。」）
- ・企画書を作成し、商店組合からの理解を得て実施につなげる。
- ・街に関われたという誇り・自信・責任を持てるものにする。

● 街のコンシェルジュ

- ・1年目に地域住民を対象に、ウォーキングツアーを実施(メニューは寺社巡り、食巡り、商店巡りなど)、コンシェルジュの発掘の場とする。
- ・2年目から地域に興味を持った人々による「〇〇サロン」といった場をつくり、交流を図る。





(2) 作業部会(テーマ2)

- ①タイトル：エイジフレンドリー普及啓発情報発信
- ②概要：高齢化のマイナスイメージを払拭し、プラスイメージを創出する情報発信、メディアを活用した普及啓発について考える。
- ③参加者：14名（NPO団体、アルヴェサポーターの会、市民リポーター、絵本作家、策定委員会委員、市職員など）

④開催経過

	日時	会場	参加者数	主な内容
	10月15日	アルヴェ市民交流サロン	11	参加者自己紹介、意見交換「高齢者の強み・弱み」「高齢社会の強み・弱み」
2	10月30日	アルヴェ市民交流サロン	9	意見交換「情報の発信相手は？」「どの主体(相手)に何を期待するか？」「事業案のアイデア出し」
3	11月5日	アルヴェ市民交流サロン	11	意見交換「行動計画案の絞り込みとシール投票」「ワークシートを使った行動計画案の具体化」
4	11月21日	アルヴェ市民交流サロン	10	意見交換「全体での行動計画案の振り返り、整理」「行動計画案の精査と追加のアイデア出し」

⑤作業部会での意見

- ・「エイジフレンドリーシティとは何だろうか？」という話題から、「生きていて良かったねという街づくりなのでは？」と話し合った。
- ・「命の尊厳」は高齢社会の強みではないか。
- ・高齢社会の強みである「豊かな経験」には「戦争体験」がある。これは、きちんと次世代に語り継がなければならない。
- ・「高齢者にやさしい都市」は「高齢者がやさしい都市」でもあるのではないだろうか。

⑥行動計画案(骨子)

4回目のワークショップで、これまで提案された様々なアイデアを振り返るため、全体で意見交換をしたところ、「まずはできることからやっていく、小さなことを継続していく活動と同時に、大きなものにも取り組んでいく形はどうか」との意見が出された。数多く出されたアイデアを絞り込まず、概ね下記の2つを軸に、継続的な発信の必要性があるとして合意した。

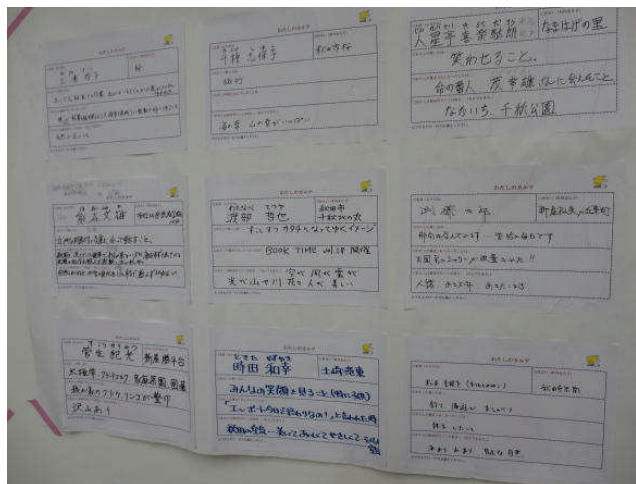
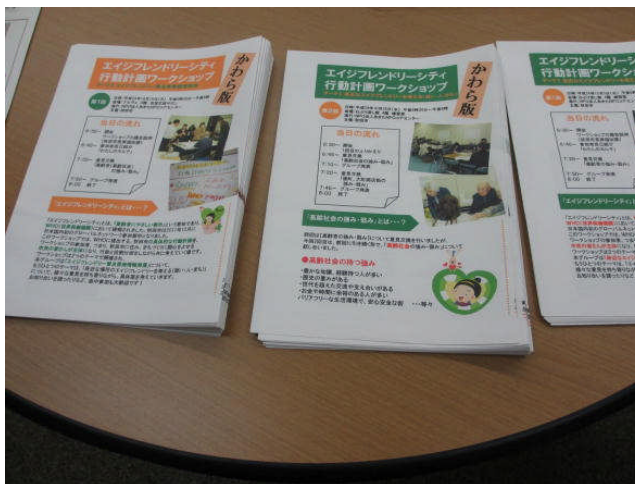
● イベント実行委員会の発足

高齢者アイドル、エイジAKBの発足、キャラバン隊、エイジフレンドリー漫談などイベント系アイデアが多く出された。これらを実施につなげるため、まずは作業部会の参加者が中心になり委員会を発足する。

● エイジフレンドリー発掘委員会の発足

11月10日に開催した、IFA グレグ・ショー氏の講演会で紹介された、アイルラン

ドの「エイジフレンドリーなレストランガイド、マップづくり」を参考に、高齢者にやさしい店、高齢者にやさしいもの（みんなにやさしいという視点も入れる）等を見つけ、情報発信するため、作業部会の参加者が中心となり、エイジフレンドリー発掘委員会を発足させる。



3 今後の予定

- ・作業部会テーマ2は12月4日（火）に第5回目を開催する。
- ・作業部会テーマ1, 2とも平成25年1月に第6回目を開催し、行動計画（案）をまとめる。